

小山市立博物館

博物館だより

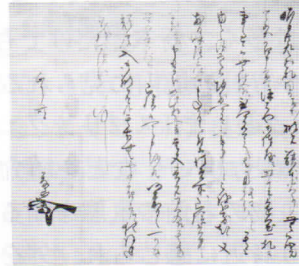
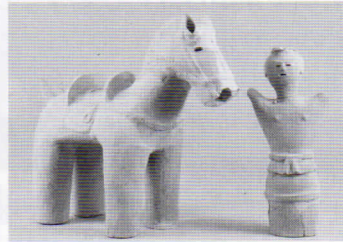
2014
9.15

59

小山市制60周年記念 小山市立博物館第64回企画展

指定文化財でふりかえる

小山の歴史



平成26年11月1日(土)～平成27年1月12日(月・祝)

市制60周年に当たり、小山の宝ともいえる指定文化財をとおして、小山の歴史を振り返る展示を開催します。指定文化財は、小山の風土や歴史、そして小山で生きてきた人々の暮らしの中から生み出されてきたもので、郷土のことを深く理解する上で欠くことのできないものです。広く文化財の意義をみつめ直し、節目となるこの年に郷土の歴史を振り返ることで、さらに小山という土地への理解と、興味を深める機会となれば幸いです。

* 記念講演会 *

「文化財とはなにか 一文化財保護の考え方」 11月3日(月・祝) 13:30～

講師 菊池健策氏 (元文化庁文化財調査官)

* 記念講座 *

① 「小山の文化財巡り」 市内の文化財を学芸員の解説を聞きながらバスで巡る 9:00～15:00

◇古代編 11月15日(土) (11/1) ◇中世編 平成27年1月10日(土) (12/20)

◇近世編 11月29日(土) (11/14) ◇近代編 12月6日(土) (11/20)

② 講座「ここが知りたい小山の歴史」 特に注目されるテーマを学芸員が講義 13:30～

◇「古墳が語る小山～琵琶塚・摩利支天塚古墳を中心に」 11月9日(日)

◇「中世小山の都市景観～小山氏の城と神鳥谷曲輪」 12月20日(土)

◇「幕末小山の戊辰戦争」 11月22日(土)

◇「発展の礎 小山の養蚕」 12月13日(土)

※申し込み…①は葉書で。締切〔 〕内必着。

それ以外は電話で。[45-5331] 応募者多数の場合は抽選

【休館日】月曜日(祝祭日をのぞく)・毎月第四金曜日・祝日の翌日・年末年始(12月28日～1月4日)

【入館料】大人 200(100)円、高・大学生 100(50)円、中学生以下 無料 ※〔 〕内20名以上団体料金



1段目左から：ナウマンゾウ第三臼歯化石(市指定)、寺野東遺跡(国指定)、北上野1号墳出土形象埴輪(市指定) 2段目左から：佐山家板碑(市指定)、月宮鑑 須賀神社蔵(市指定)、小山秀綱書状 個人蔵(市指定) 下段左から：心図絵馬 間中稲荷神社蔵(市指定)、間々田のジャガマイタ(国選択)

栃木県立博物館地域移動博物館

のぞいてみよう植物ワールド～維管束植物の世界～

8月1日(金)から9月7日(日)まで、栃木県立博物館地域移動博物館「のぞいてみよう植物ワールド～維管束植物の世界～」を開催しました。「維管束」とは、聞き慣れない言葉ではありますが、植物にとってとても大切な組織です。それは、道管(根から吸収した水や養分の通る管)と、師管(光合成によって作られた栄養分の通る管)の集まった束のことです。人間でいえば、血管のようなものと言えるかもしれませんが。「維管束植物」とは、維管束をもち、体が根・茎・葉からできている植物のことです。陸上の植物は水中で生活する藻類から分化してきましたが、コケ植物、シダ植物、種子植物としたいに水から離れて生活できるように進化してきました。これには、維管束の発達が大きく関係しています。維管束があるために、土中の水分を根から吸い上げ、それを体中に運ぶことができました。これは植物が、水から離れても生きられるようになったことを意味します。こうして植物は、さまざまな場所や環境に対応するとともに多様な進化を遂げてきました。維管束のないコケ植物は、水から遠く離れて生活することはできません。また、維管束植物は、長い進化の歴史の中、維管束を持つようになったことで体を大型化するチャンスを得たとも考えられています。

維管束植物の種類は多く、栃木県だけでも約3000種類が知られています。今回の展示では、県内の平地に広がる雑木林や寺社の境内に見られるその土地本来の植物、栃木県ゆかりの植物を中心に紹介しました。また、トピックとして「スプリングエフェメラル※1」「イチジク類とコバチ」などを紹介しました。身のまわりの生物の名前や生態を知ることができると自然がより身近に感じられ、外を歩くことが楽しくなります。今回の展示は、野外散策の楽しみを増やす一助となったことと思います。

また、展示期間中には、栃木県立博物館自然課主任研究員の星直斗氏を講師に迎え、「栃木県内に見られるコウホネ類について」と題した講演会を実施しました。栃木県内に見られるコウホネ類について、見分け方、分布、保全などについてお話いただきましたが、市内のコウホネの分布が分かると講演会後に早速観察に出かける方々もおられました。コウホネは、6月～9月が開花時期ということで、葉を力強く水中や水上に出し、その中央に一輪の黄色いかわいらしい花を咲かせていました。講演会もまた展示会とともに、来館者の皆様に自然に親しみ自然の中を歩くことの楽しさを感じていただく一助となることができました。



展示風景

コウホネ *Nuphar japonicum*

※1 春先に開花し夏まで葉をつけると、あとは落葉広葉樹林の林床などの地中で過ごす一連の野の花を総称してスプリングエフェメラル *Spring Ephemeral* と呼びます。その可憐さから「春の妖精」とも言われます。

平成26年度後期観望会の見どころ

毎月第2土曜日に定例観望会を開催しています。昼間は博物館駐車場で太陽観測を行い、夜間は生井公民館で季節ごとに見られる星座や星の観測を行います。これからの季節は比較的天候もよく、空気も澄んできますので、星の観測には最高の時期となります。

見どころといえば、なんと言っても「木星」です。太陽系最大の惑星である木星が、秋から冬にかけて観測シーズンに入ります。「ほっしー★OYAMA」号搭載の望遠鏡をのぞいてみましょう。そこには、なんと、木星の縞模様まで映っているはずです。観望会の会場では、「なぜ木星に縞模様があるのか。」の解説もしています。

次に「月」をのぞいてみましょう。月表面のクレーターまで、はっきりと見えるはずです。もしかしたら、うさぎまで見えるかも? 月表面の神秘的な風景を見たら、きっと「来て良かった!」と思うはずです。また、冬になると星たちは一層輝きを増します。木星や月以外にもオリオン座やすばる(プレアデス星団)などの有名な星座や星団なども見ることができます。冬の夜空の星座の大きさは、感動ものですよ。月に一度の夜のひととき、どうぞご家族で夜空を眺めてみてください。

太陽を見よう!



観望会の日の11時から12時30分には、博物館駐車場で「太陽観測会」を実施しています。

季節の一枚

「入道雲」

新4号線を北上しているとき、東の空に、入道雲がもくもくと顔を出してきた。出始めたばかりでまだ赤ちゃんのよちよち歩きのようによわよわしい姿だ。幼心に残っているのは、入道雲は夏の風物で夕方に一雨きて涼しさを送ってくれたものだ。さっときて、さっといってしまう。自然の恵みでもあった。でも、最近の入道雲は私たちを困らせている。バックビルディング現象なるものが起き、短時間に、限られた地域に、大量の雨を降らせ、竜巻発生の原因になる場合もある。最近、暴れん坊で困る。



伝統芸能・講談で聞く「小山評定」開催報告

この春開催した、第63回企画展「小山評定と関ヶ原合戦」の期間中、小山評定を題材とした新作講談を講談師・神田真紅(かんだしんく)さんに披露していただくという、新しい試みに挑戦しました。

「講談で聞く小山評定」の講座は、歴史や武将の話は苦手と言われるお客様にも小山評定を楽しく知って頂きたいと企画したものです。釈台を叩きながら題材を解説する講談は落語より堅いイメージがありますが、実際は笑いを誘う言い回しがあったり、時事テーマを盛り込んだ解説が挟まれたりと、とても聞きやすく工夫されています。GW初日の講座にはたくさんの方にご参加いただき、若い女性講談師の



講談師 神田真紅さん

巧みな話芸に客席からは感嘆の声が上がっていました。

講談師神田真紅さんは、当館学芸員の同級生の方のお知り合いの落語家さんにご紹介頂きました。真紅さんの師匠筋にあたる神田松鯉師匠は「3人挟めばみな知り合い」と言われていましたが、その通りなのかもしれません。今回も多くの方にご協力頂いて本講座を開催することができました。このご縁を大切に今後も伝統芸能に触れる機会を設けていきたいと思います。

コラム 博物館職員雑記帳

「関心をもつ」で新しい世界 2

指導主事 小倉敦史

「見えなかったものが見えてくる」決して怖いものが見えてくる話ではありません。博物館に勤務するようになって、明らかに私の目に変化してきています。

例えば、昆虫や野鳥などの動植物。同じようにしか見えていなかったものが、かなりの種類見分けられるようになって自分に気がつきました。仕事だからあたりまえなのですが、興味を持ち始めるようになってその種類は劇的に変化しています。星座に関してもそう。星座板に頼らず星を線で結んだり、観測したい天体を探し出したりとこれまでの自分ではちょっと考えられないほど「目」が育っています。

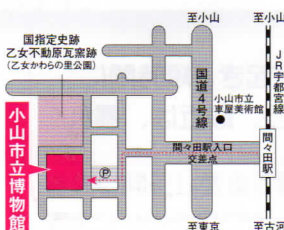
博物館の職員として働いて4年目に突入。ますます「関心をもつこと」の大切さを実感しています。仕事を通して関心を持つ。興味を持って学ぶ。そしてそれをまた仕事に生かす。このサイクルを大切に、さらなる「新しい目」を育てながら、子どもたちに新しいことを知る楽しさを伝えていけたらと思っています。

寄贈者芳名

次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。厚くお礼申し上げます。(敬称略)

■ 佐々木 順(小山市) 機神講掛軸

■ 斎藤 直樹(埼玉県) 子ども体験用甲冑 3領



発行年月日 平成26年9月15日

発行 小山市立博物館

〒329-0214 栃木県小山市乙女1-31-7 (JR宇都宮線間々田駅西口下車徒歩10分)

電話 (0285) 45-5331 FAX (0285) 45-5247

H P <http://www.city.oyama.tochigi.jp/kyoikuiinkai/hakubutukan/>

印刷 株式会社ダイサン小山